

研究課題名：	アミノ酸輸液製剤と <i>Bacillus cereus</i> 血液培養陽性症例の因子に関する検討
研究機関名 所属（診療科等）：	さいたま赤十字病院 薬剤部
研究責任者及び職名：	臨床薬剤業務係長 高野 温志
研究期間：	研究実施期間 実施承認日 ～ 2022年 3月 31日 カルテ調査期間 2017年 4月 1日～2020年 10月 31日
研究の目的と意義：	<p>グラム陽性有芽胞菌の一種である <i>Bacillus cereus</i> (<i>B. cereus</i>) は、カテーテル関連血流感染の原因菌の1つであり、特にアミノ酸輸液との関連については、国内での報告も散見される。2019年 8月 23日には、厚生労働省医政局地域医療計画課より「医療機関における <i>Bacillus cereus</i> の院内感染事例について」との事務連絡が通知され、各医療機関において <i>Bacillus cereus</i> に係る院内感染対策の推進と周知が求められている。これらに対し、アミノ酸輸液をはじめとした末梢輸液製剤の血流感染を予防するため、輸液ラインの取り扱いや標準予防策、環境整備など対策が講じられているが、輸液製剤の投与経路および投与時間ならびに製剤規格について言及した論文は少ない。</p> <p>当院では、2019年 10月より、<i>Bacillus cereus</i> に起因するカテーテル感染症の予防対策として、アミノ酸含有総合電解質輸液であるビーフリード輸液の製剤規格のうち 1000mL 製剤の採用を中止し、500mL 製剤のみの採用とした。併せて、ビーフリード輸液の長時間投与（6時間以上）の対策として、注射オーダー時に「6時間以内での投与推奨（か感染予防目的）」の注意喚起コメントを掲載することとした。</p> <p>今回、<i>Bacillus cereus</i> に起因するカテーテル感染リスクを検討することを目的にビーフリード輸液が投与された患者のうち、血液培養から <i>Bacillus</i> 属が検出された患者 32名ならびに対照群を無作為に 64名抽出（計 96名）を対象に、以下調査した。</p>
研究内容：	<p>2017年 4月 1日から 2020年 10月 31日の期間における上記、対象患者について電子カルテを用いて後ろ向きに調査する。</p> <p>調査項目：性別、年齢、体重、身長、臨床検査値（血清アルブミン、ヘモグロビン A1c、eGFR）、臨床的特徴（透析、がん、化学療法、ステロイド療法、免疫抑制剤の使用）、血液培養から <i>Bacillus</i> 属の検出、BFLUID の用法用量、投与時間、使用期間。</p>
個人情報の取り扱い	<p>当院より外部へ情報を送付することはない。</p> <p>集計した情報を学会発表や論文などで公表する際も患者さんの個人が特定できる情報は公表されない。</p>

問い合わせ先： (拒否等の受付窓口)	【研究担当者】 所属：さいたま赤十字病院 薬剤部 氏名：高野 温志 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心1番地5 電話：048-852-1111 (内線 3408)
-----------------------	--